

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年 一月度 入選句 (投稿総数千五百六十一句・一般投句数四百七十一句)

特選

選者 大橋庄一郎

病床の夫の窓辺に初日射す

養老郡養老町 田中 秀子

長い間の闘病生活なのでしようか、無事越年なされた、病床のご主人の窓辺に、おごそかなものに感じられ、拍手を打って拝む姿がそこに見られる、元日の朝日が射し込み、ご主人の健とと共に新しい年を迎えた、喜びをうたわれ、よろこびの漂う句である。

子ら帰り静けさ戻る冬座敷

大垣市 宮脇 和子

子供や孫が正月休みの帰省で来てゐたが、年明け仕事始めに合せて帰って行った、幾組かの家族が集まり、賑わしかった、家の冬座敷も静かになった、よく云はれる「子や孫の来る日待つ」が、帰って行く日も待つ」の言葉通りで、無事に満足して帰った安心感と喜びがよく感じられます。

中空に挙手のにぎわい冬木立

滋賀県甲賀市 甲賀 忍者

空のなかほどに、挙手の様に手を上げてるようなにぎわい、葉が落ちて立ち並んだ、寒々とした冬木の群れをよまれ、冬よく目にする風景をとらえられた佳句である。尚冬木立は、寒林のような広がりがある冬木の群れではなく、又冬木のように一本か数本のものでもない。

秀逸

句作よりうたたね先の日向ぼこ

不破郡垂井町 桐山 芳和

喜寿むかえまだまだ元氣寒の入り

大垣市 溝渕 君子

何よりも家族の笑顔祝う屠蘇

大垣市 多和田 一徳

天平の窯場跡とや雪しぐれ

安八郡神戸町 後藤 和朗

一本をつけて二人の晦日蕎麦

東京都世田谷区 関戸 信治

年の暮走り回るは母ひとり

大垣市 谷 睦月

宮掃除終へて囲める焚火かな

安八郡神戸町 高橋 日出美

傘寿過ぎ生きる喜び賀状書く

不破郡垂井町 富田 実郎

薄雪にのぞく赤さや寒つばき

大垣市 高石 政明

梁太き旅籠の厨根深汁

岐阜市 石崎 宗敏

入選

マララさんの受賞に拍手冬ぬくし
良きことの予定埋まりし初暦
粛粛と終活はじめおらが春
暮早し下校の児らの靴の音
晦日蕎麦すする家族のゑびす顔
小刻みに振へる茶杓初点前
お年玉幼き顔に皆戻る
川の字になって故郷寝正月
松茸も笑う高値の華となる
木の葉散り青空近くなりけり

愛知県岡崎市 矢田 あさの
揖斐郡大野町 藤田 涼子
大垣市 喜田 守
不破郡垂井町 小竹 政子
大垣市 神野 武彦
大垣市 早崎 美弥子
大垣市 久富 キヌエ
北海道小樽市 大橋 美彌
加茂郡八百津町 細江 やなやな
揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

入選

孫の世話嬉し疲れし冬日和
通学路積雪えらび歩く子ら
氏鉄の騎馬像凜と寒に入る
めえめえと羊群れ来る年賀状
息災を願う柏手初詣
のみ仲間おでんつつきしがやがやと
無防備の首都圏襲う雪の報
訪ね来てふと蠟梅の香に和む
おてんばの着慣れぬ春着てんやわんや
西に座し威風の山河雪伊吹

大垣市 川出 久美子
大垣市 高柳 知加子
大垣市 村田 通夫
大垣市 川瀬 喜梅古
大垣市 宮脇 和子
不破郡垂井町 高木 紫雲
大垣市 仁村 光生
大垣市 三宅 ヒサエ
大垣市 伊藤 有紀
不破郡垂井町 西垣 和志

選者吟

みくじ引く運見せ合って初笑ひ

庄 一郎